

紙類分類が少なく、多くは焼却されている！？

去る7月23日(月)、見学をした福島区、城東区、鶴見区の5つの学校、先生が熱心なところでは「紙を燃やさない」を徹底し、紙分別もきれいで燃やさないで保存をしてくれていました。紙の量は小学校より中学校が多く、高校では毎月の回収が、1校で2tトラックが一杯になる量になるところも。

気づいたことですが、多くの学校における紙分類は図書類、新聞、ダンボールの3つで、日常的にできるコピー用紙、プリント類、個人情報保護法の関係でシュレッダーにかけるものは資源として保管している学校は少なく、そして図工や文化祭運動会等における紙類は焼却ごみとして出されている可能性があります。

学校の紙プロジェクトを開始して1年半あまり、課題は山積しています。ひとつには参加校がまだ少なく、大阪市内の参加校が120校で全体の30%しかなく、学校毎の自主判断となっている点。2つめにパルプから製品化されたものはすべてリサイクル(使用済みトイレットペーパーやティシュペーパーなど汚れているものは不可)できることの認識が少ない。3つめが紙分別の周知のためには、子どもたちが自ら関われる環境をつくる事です。

このプロジェクトの役割は、仕組みづくりをしていくことです。現在、関西古紙製紙組合さんの協力で、回収費0円で要請のある学校を回ってもらっています。本来なら事業所系ごみは有料ですので、学校の経費コスト削減がCO₂削減にもなる一石二鳥の仕組みなのです。そして、日常生活の中から子どもたちに環境教育の実践ができる利点があります。

学校の紙プロジェクトの運営は、関西古紙製紙組合、出版社等の協賛金によって成り立っています。回収される古紙の量はまだ少なく、本来ならリサイクル製品を学校へ還元すべきところですが、まだまだ至っていません。

大阪市内にある事業者、団体で、紙を普通ごみとして出しているところは、焼却されていますので、このプロジェクトに参加をお願いします。回収コストの削減もさることながら、少しでもCO₂の排出量を共に抑えていきましょう。



同行:NPO 法人「集めて使う古紙リサイクル協会」メンバー
同会の目的は、学校での紙分別の実践状況と今後の取り組みへの参加促進の事前調査。
秋にはアンケート実施と分別袋の設置をお願いし、回収時に実態調査・状況分析を行う予定。



左上:中学校での回収風景。黒ビニールの中身はシュレッダー紙。
左下:古紙回収工場での荷下し作業。各学校単位で計量・圧縮。
右上:小・中学校2校の紙ごみの量。回収は2tトラックで行う。
右下:圧縮された紙類が積み重ねられています。